

第5回 刈谷市都市計画マスタープラン・緑の基本計画策定委員会 議事録

1 日 時

令和4年1月28日（金）午後3時00分～午後4時00分

2 場 所

社会教育センター401 研修室

3 出席した委員 14名

委員長：瀬口哲夫

委 員：磯部友彦、岡田行永、永田憲正、高井智幸、大野淳、大野裕史、近藤莊太、岸野浩子、
近藤真理、三浦光世、小井手秀人（代理：後藤俊治）、稲吉豊治（代理：志賀雅樹）、
前野宏光

4 欠席した委員 3名

委 員：成瀬友晃、名倉充男、加藤京子

5 事務局

清水課長、小川課長補佐、林工務係長、堀場主任主査、新美主事

6 傍聴者

なし

7 公開・非公開の別

公開

8 議題

- （１）これまでの検討経過について
- （２）緑の基本計画《素案》について
- （３）スケジュール（予定）

質疑

《議題（１）について》

説明（資料2-1：これまでの検討経過について）（資料2-2：前回の主な意見と対応）
意見無し。

《議題（２）について》

説明（資料2-3：第3次刈谷市緑の基本計画《素案》）
（資料2-4：《参考資料》SDGsの理念に基づく緑のまちづくりの推進）
（資料2-5：魅力あふれる公園づくり事業の概要）

【委員】

P.17 左下「民間との連携による緑の創出」と記載があるが、下段には「民間との連携による公園の魅力向上」となっている。具体的な施策とタイトルの整合性が取れていないため、表現を合わせたほうが良い。

P.10 緑の将来像図について、都市計画マスタープラン P.51 では、住宅地区の上に、新市街地検討ゾーン①、④と表現されているが、緑の将来像図では、田園保全エリアとなっている。並行して策定している計画のため、都市計画マスタープランに合わせた表現とするのはどうか。

【事務局】

P.17 については、記載方法を検討する。

P.10 については、市街地拡大の取り組みが具体的に動いていないことから、田園保全エリアとしている。記載内容については、都市計画マスタープランと連携を図りながら、検討をする。

【委員長】

P.18 各地域の顔となる緑のまちづくりとあるが、民有地の緑化については、記載できないか。民間との連携とは、公園の緑についての連携であるため、公園以外の工場や住宅の緑についても、記載があると良い。

【事務局】

P.17 の「つくる緑」については、民間との連携を図り、都市の活力をつくるということを目指している。公園以外の緑については、P.21 の「つなぐ緑」の中で、市民と一緒に緑を活用する取り組みを目指すことを記載している。

補足となるが、P.17 については、今後、Park-PFI による連携を図りながら、公園の魅力を向上するため、「緑の創出」から「公園の魅力の向上」と記載を変更する。

【委員】

「民間との連携による公園の魅力向上」は「たかめる緑」のほうが良いのではないかと。「つくる緑」は工業緑化など面積を確保することではないか。公園の活用は「たかめる緑」のほうが良いと思う。

【事務局】

記載方法は、事務局で検討する。

【委員長】

道路際に緑を配置する施策等の記載はあるか。例えば、接道緑化率のような指標を用いたらどうか。道路際に緑化をすれば、道路を通るときに緑の量を多く感じることができる。市民の共有の財産として、道路際に配置する姿勢も大事だと思うが、それについて、記載はあるか。

【事務局】

P.15 「水辺環境と生物多様性への対応」の文章中に道路だけではなく、周辺の緑化を推進していくことを記載している。

【委員長】

接道緑化率は、施設と接続する道路に緑地を何パーセント確保しているかである。市内の企業が駐車場の前を緑化している。色んな企業が行えば、市内の緑が見た目で豊かであることが分かる。

【事務局】

緑の将来像に、「緑のみち」を設定している。また、P.23以降も、「緑のこみち」として、公園を繋ぎながら緑を感じる、ウォーキングルートの設定も行っているため、緑、景観を少し意識しながら取り組んでいくような方向性としている。

【委員】

SDGsの14番「海の豊かさを守ろう」について、記載が無い。日本は海に囲まれている。降った雨が舗装を流れるか、緑地の下に流れ地下水となるかでも変わってくる。土の中で浄化され、綺麗な水となり、川から海へ流れていくことから、関係性はあると思う。

【事務局】

SDGsの記載の仕方は現在、調整をしている。14番については、河川に関する取り組みと結びつけるように検討をする。SDGsの記載については、委員の皆さまからご意見をいただきたい。SDGsを広く設定すると、市民が見た時に設定した根拠が分かるような補足の説明が必要となる。また、総合計画等も踏まえながら設定すること検討している。

【委員】

SDGsの関係を示すことは良いと思うが、表記を小さくし、関係性があることが分かる程度にすると良いのではないか。

【委員長】

SDGsを基本に考えていくという姿勢であるため、表記の大きさはお任せするが、14番「海の豊かさを守ろう」は総合計画では、上下水道に対して記載をしている。樹林地やため池は河川と関係があり、河川は上下水道と繋がりがあることから、総合計画と調整を図ることで記載を見直すことができるのではないか。樹林地の樹液(栄養分)が河川に流れ込み、それが海に流れ、魚介類が繁殖することも14番との関係性はある。

【事務局】

SDGsの記載表現については事務局で検討する。

【委員】

P.29 市民の2行目の中で、「市民自らが～」と記載があるが、「市民が自分ごととして～」と記載してほしい。都市計画マスタープラン「計画の実現に向けて」にも同様の記載がある。

また、刈谷市では、「共存・協働」と並べて書くことになっているため、「共存・協働」に記載を変更してほしい。

刈谷市では、アダプトプログラム制度が無いいため、市民が協働できるような取り組みがあると良い。

【委員長】

アダプトプログラム制度が今まで実践されていない理由はあるか。

【事務局】

他部署との関連もあるので、対応については検討する。

【委員】

P.29 事業者の文章中に、何か新しいアイデアや、柔軟な取り組みなど、事業者に今後、期待する表現があると良いと思う。

【事務局】

民間との連携については、今後期待をしているため、記載方法を検討する。

【委員】

持続可能という観点で、現在「まもる緑」に項目があるが、計画全体を持続可能なものにしていくような観点があると良い。

【事務局】

計画全体を持続可能な方向性となるよう、記載方法を検討する。

【委員】

公園の整備の話になるが、亀城公園に繋がる歴史の道の魅力が足りない。楽しみや、滞留できる芝生空間があると、また公園に来たいと思える。

【委員長】

楽しくない、魅力がない公園ではいけない。公園に魅力がないと、刈谷市がいい街だなとはならない。

【事務局】

亀城公園は、魅力あふれる公園づくり事業の中で、魅力のある公園となるよう、参加者と一緒に構想づくりができればと考えている。

【委員】

休日の街区公園に、豊田、豊明、名古屋ナンバーの車が止まっている。公園にはバスケットゴールがあるので、バスケットをして遊んでいる。珍しく市外から多くの子供が集まる場所となっている。

【委員長】

人が集まる原因が分かると、街区公園でも、魅力のある公園を目指すことができる。

《議題（３）について》

説明（資料 2-6：スケジュール（予定））

意見無し。

以 上